

第3章 ボールルームダンス文化の振興方策とシステムの構築

1. ボールルームダンス学習支援システムの構築

(1) 学校学習におけるボールルームダンスの明確な位置づけと改善

ボールルームダンスは成熟社会において求められる人間の育成に資することから、その基礎的な学習は学校学習のなかで重視することが望まれる。また、その学習指導等においては、関係者の積極的な支援と活用が行えるようなシステムの構築が求められる。

ボールルームダンスがもつ文化的意義、そして、成熟社会において求められる人間の育成を考えると、ボールルームダンスの基礎的な学習を学校学習において重視し、より明確に位置づけることが望まれる。なぜなら、これからの学校学習には、仕事に資する能力開発にとどまらず、人間的成熟につながる“生きる力”を育むこととともに、暮らしのなかで文化を享受する能力を開発することが求められるからである。

とりわけ、グローバル化が叫ばれ、市民レベルでの相互理解と相互尊重のための国際化教育や、人間的関わりについての学習がきわめて重要なものとなっている現在、万人に開かれた文化であり、コミュニケーションと表現のメディアとして人間的交流の能力を育むボールルームダンスは、学校学習において十分に尊重されねばならない。

したがって、小・中・高の体育科授業においてはもちろんのこと、学校行事や課外活動などにおいても、ボールルームダンスの基礎的な学習を積極的に採りあげ、推進して行くことが望まれる。そして、学習内容や指導方法の開発、その実践などは、担当教師のみが担うのではなく、その要請に応じて、ボールルームダンス関係者の積極的な支援と活用が望まれ、それを可能にするシステムの構築が求められる。

(2) 地域におけるボールルームダンス学習支援システムの構築

人々が能力と意欲に応じてボールルームダンス文化を享受できるようにするためには、生活に密着した地域の学習支援システムを構築することが求められる。このシステムは、学習自体が文化的享受となるような、柔軟でゆるやかなものであることが望まれる。

生涯学習時代といわれる現在、学習活動を学校教育のみに求めることはできない。生活における変化のテンポは速く、人々の生きかたや課題は多様なものとなることが予測されるからである。したがって、ボールルームダンスの学習も、人々の享受能力と学習意欲に応じた多様なものとなり、学習を支援するシステムについても、さまざまな条件に対応しうる柔軟性をもつことが望まれる。

また、生活文化としてのボールルームダンスを享受するには、身近なところでの自然なかたちでの学習が重要になる。したがって、それぞれの地域においてボールルームダンスの学習支援システムを構築することが望まれる。

地域における学習支援システムは、多様な内容と展開方法を備えたクラスシステムとして構成されることが多い。しかし、市民生活におけるボールルームダンスの学習においては、学習それ自

体をその文化享受の一環に位置づけることが望まれるから、必ずしもクラススタイルにこだわる必要はない。むしろ、大きな潜在需要を掘り起こすには、市民によるボールルームダンス組織との関わりなどを通じた柔軟な学習組織、ゆるやかな学習支援システムであることが望まれる。

(3) 学習支援のための共通ビジョンとカリキュラム等の開発

ボールルームダンスの学習支援システムの構築には、明確でしっかりとした学習支援のための共通ビジョン、カリキュラム、支援方法の開発が求められる。

市民生活におけるボールルームダンスの学習支援システムを構築するには、それを支えるだけの明確でしっかりとした支援のための共通ビジョンとカリキュラムを確立することが求められる。なぜなら、ボールルームダンス文化の振興には、単にその人気を追求することにとどまらず、本質的な価値への気づきと文化的特性への理解を基調にした品位が求められるからである。

学習支援の共通ビジョンは、これからの市民生活における成熟型ライフスタイルと多様なライフステージに対応しうる文化的享受モデルを基調にして構成することが求められる。

また、共通カリキュラムは、人々の多様な能力と意欲に応える柔軟性を有するとともに、ゆるやかな享受能力の高まりを導く内容であることが望まれる。

そして、支援方法については、「教える－教わる」という従来の関係にとられず、ボールルームダンスの学習それ自体が文化享受であるということに基づいて、学習内容の魅力と価値によって自発的な学習が導かれるものである。

(4) プログラム提供やセミナー活動など、地域サービスシステムの構築

ボールルームダンスが生活文化として確立するためには、市民的組織がメンバー相互の文化享受活動を支えあうとともに、広く地域住民に対してイベントやプログラムの提供などを行う地域サービスシステムの構築が望まれる。

ボールルームダンスが生活文化として確立するためには、地域におけるボールルームダンスの市民的組織が、その活動を通じてメンバーの文化的享受を互いに支えあうとともに、享受機会を広く市民社会全体に開放・提供し、地域全体の享受水準が向上するよう機能することが望まれる。

こうした市民的組織の活動は、ボールルームダンスの本質的な価値と文化的特性に留意しながら、地域住民の享受能力と意欲に対応しうる多様なイベントやパーティー・プログラムの提供、レベル対応の学習プログラムの提供、ステップやターンなどの技術チェック機会を提供するクリニックの開設、リズムや音楽性、表現などに関するセミナーや、ボールルームダンスの歴史や文化としての特性に関する討論会の開催など、広がりと深まりを有することが望まれる。

こうした学習支援というサービス活動を通じた組織と地域との間の豊かな信頼関係を育むことによって、ボールルームダンスが市民生活のなかにしっかりと根ざし、生活文化として確立するのである。

2. 指導者養成システムの確立と整備

(1) 指導ビジョンの確立と指導者モデルの開発

ボールルームダンスの普及と振興のために、指導ビジョンの確立と、あるべき指導者像を具体的に明示した指導者モデルの開発が求められる。

文化は学習によって伝えられ普及する。したがって、学習の支えとなる指導は、文化の発展にとってきわめて重要な意味をもつ。適切な指導は、その効率を高めるだけでなく、それぞれの文化がもつ魅力への早期理解を促し、大いなる振興をもたらすが、適切な指導がなければ、学習が停滞するだけでなく、無意味な営みと捉えられて、むしろ振興の阻害要因になるからである。

とりわけ、移入文化であることに加えて、文化的偏見と蔑視にさらされてきたボールルームダンスの普及と振興にとって、指導がもつ意味と役割にはきわめて大きなものである。したがって、ボールルームダンスの指導は、多様な学習状況に対応するとともに、ボールルームダンスがもつ価値と文化的特性の理解に基調を置いた共通の指導ビジョンの下に展開されることが望まれる。共通の指導ビジョンは、具体的な指導場面でみられがちな不統一性を是正するとともに、ボールルームダンス享受が学習者にとっては「より好ましいもの」、社会にとっては「より望ましいもの」となっていく基本的なシナリオを与えるものである。

指導ビジョンの確立とともに、指導者モデルの開発も求められる。このモデル開発においては、指導者に共通して求められる能力や資質を明らかにすることによって、あるべき指導者像を具体的に明示することが望まれる。

こうしたビジョンやモデルの明確化は、日常的な指導活動の支えになるとともに、指導に対する社会的信頼を高め、指導活動を評価する具体的な手がかりを与えるものとなるのである。

(2) 学習指導における内容と方法のシステム化

ボールルームダンスの文化的享受が、経験とともに広がり深まることは、きわめて望ましいことである。また、指導が一定の質を保つことは社会的信頼を著しく高める。したがって、ボールルームダンスの学習指導のシステム化が望まれる。

20世紀以降、ボールルームダンスの文化的内容は極めて豊かになった。そしてまた、その文化的享受が各人の経験に応じた多様性をもつことも望まれている。これに応えていくためには、学習の広がりや深まりを楽しく効率的にする学習指導のシステム化が望まれる。このシステムを構成するためには、それぞれの踊りの構成要素をみきわめ、相互関係を軸にして整理・体系化することによって学習内容を明確にし、それを易しいものから難しいものへと配列することによって学習の成果が見通せるカリキュラムを構成することが必要となる。

このカリキュラムを手がかりに、学習者の経験や能力、意欲に応じて学習指導の進め方を工夫し、段階的に発展する内容と方法の体系を構成すれば、ボールルームダンスの学習指導システムモデルが作られるのである。

このシステムモデルが構築されれば、指導が個々の教師の力量に左右されない一定の共通の

質を保つものとなり、指導に対する大きな社会的信頼を得ることができる。しかしながら、こうしたモデルが一人歩きすることによって、教師の個性が過剰に抑圧されることは避けねばならない。また、このシステムモデルは決して単一のものではなく、クラス型、クラブ型、クリニック型など、ボールルームダンス学習の多様な享受スタイルに対応するものであることが望まれる。

(3) 指導者資格認定制度と養成システムの確立

ボールルームダンス指導の文化的地位と社会的評価を向上するためには、その公共的責任と役割を明示し、社会に対して指導者の資質と能力を示すとともに、それに対応する指導者資格認定制度と養成システムの確立が求められる。

ボールルームダンスの普及と振興にとって、「指導」はきわめて重要である。したがって、それを担う指導者については、その役割と責任を明確にするとともに、資質と能力を有していることを社会に示すことが求められる。従って、一定の基準と条件によって運営される公的な指導者資格認定制度を確立し、その制度に基づいた指導者養成システムを構築することが望まれる。

指導者資格認定の制度化と養成のシステム化は、指導者の公共的責任と役割を社会に明示するものである。従って、それは指導者に対する社会的信用と評価を高め、指導への信頼を育み、学習指導の意欲を導き、学習指導活動の活性化を生み出してゆく。

また、資格認定制度に基づく指導者養成システムは、前述した指導ビジョンと指導者モデル、及び指導内容と指導方法のシステムモデルに即したものであるとともに、享受者の多様な要望に応えうる柔軟なものであることが望まれる。

3. 地域における愛好者クラブの組織化と愛好者ネットワークの構築

(1) 地域における潜在的エネルギーの活性化と組織化

地域の潜在的エネルギーを引き出し、活性化し、組織化することは、21世紀のボールルームダンス振興の重要課題である。この活性化と組織化は、クラブ開発とともに、楽しみを共有する絆によって連帯するネットワーク構築の両面からアプローチすることが望まれる。

これからの市民生活を考えるとき、地域生活に潜むボールルームダンスを求めるエネルギーは極めて大きなものである。健やかな生、豊かな交流、伸びやかな自己開発は万人に共通の願いであり、ボールルームダンスはこの願いに応えうる豊かな文化的可能性を有しているからである。従って、このエネルギーを引き出し、活性化し、組織化していくことは、21世紀のボールルームダンス振興の最重要課題となろう。

この組織化は、初心者から専門家、子どもから高齢者までを含む幅広い愛好者によるクラブを構成することによって、広がりと深まりを創り出すことができる。しかし、IT(情報技術)化時代にあって、この組織化は必ずしも固定された結びつきに限定される必要はない。むしろ文化の楽しみを共有する絆によって連帯するという穏やかなネットワークスタイルも大きな意味をもつ。

したがって、ボールルームダンス界には、愛好者のクラブ化を進めるとともに、新たなネットワークスタイルを導入することにより、これまでの閉鎖性を脱却して、市民社会により開かれた組織体制を構成することが望まれよう。

(2) 多層的組織体制とトータルダンスネットワークの構築

ボールルームダンスの振興には、専門家集団を核とし、クラブ、ネットワークメンバー、イベントメンバーからなる多層的組織体制の構築が求められ、そのために、ダンス全体の活性化を展望するトータルダンスネットワークの構成が望まれる。

ボールルームダンス文化に対する認識と理解に大きな差がある社会においては、組織が硬直化してしまうと閉鎖的な世界を生み出す危険性が大きい。愛好者の認識や理解の違いによって、自己満足的な専門化とファッション的な風俗化の二極化が生じやすいからである。したがって、ボールルームダンスの組織体制は、教師や競技者などの専門家集団を核とし、内円に熱心な愛好者からなるクラブ、外円に緩やかな連帯関係にあるネットワークメンバー、さらにその外周に、一時的な連帯を求めるイベントメンバーを配した多層構造を有することが望まれる。

こうした多層化した組織体制は、中心に向かうほどボールルームダンスに特化するが、逆に周辺に向かうほど多様なダンスに分散する特徴をもつことになる。したがって、多層的組織体制を構築するには、まず、だれもが容易にダンスにアクセスでき、その原点にあるリズムカルな動きの楽しみと喜びを味わい、魅力を自由に享受できる仕掛けが重要となる。

つまり、ボールルームダンスの振興は、ダンス全体の振興と連動し、しかもそれを重要なベースとしているのである。したがって、ダンス全体を活性化するトータルダンスの振興、トータルダンスネットワークの構成こそ、市民社会におけるボールルームダンス組織のベースとなるのである。

(3) クラブ、ネットワークの支援システムの構築

クラブやネットワークは、文化縁のうえに成り立つ文化享受の共同体であるが、我が国のそれは、人物縁を中心に成り立つことが多い。このことから生ずる弊害を防ぐには、運営、発展のノウハウなどを提供できる支援システムを構築することが求められる。

クラブは、本来、メンバーが文化から得られる楽しみと喜びを分かち合い、相互に支えあうことによってより豊かになるための共同体である。したがって、その中核をなすのは文化縁であるべきなのである。しかしながら、我が国のクラブにおいては、熱心な指導者や世話役など、特定の人物を中心に構成・運営されることが少なくなく、人物縁に依存して成立している傾向が強い。その結果、閉鎖的な世界に陥りやすいばかりではなく、中心人物の事情によって容易に消滅してしまう不安定性をもつことになる。こうした状況は、クラブが共同体として熟成する妨げとなり、結果として、市民生活における文化享受の成熟を阻害する要因となっているのである。

クラブの創設やネットワークの構築においては、熱心な世話役の存在は欠かせない重要なものであるが、すべてをそこに依存してしまうと、権限がそこに集約され、非民主的で閉鎖的な体制となる危険性が生じる。したがって、地域におけるボールルームダンスのクラブやネットワークづくり

には、文化縁を重んじた運営、その発展のノウハウなどを提供できる支援システムを構築することが求められる。

4. 競技会制度の整備、及び競技力開発システムと国際交流促進システムの構築

(1) 競技会制度の整備

競技会の乱立は、その社会的地位と評価を不確かなものとし、愛好者の混乱を導く。したがって、競技者の意欲を喚起し、社会的承認を得る競技会制度の整備が求められる。

ボールルームダンス界においてはさまざまな組織が存在し、それに対応したさまざまな競技会が開催されており、ある種の乱立状態の様相がみられる。この多様性は、愛好者の多様な要請に応える限りにおいては有効であるが、組織のエネルギーを拡散させるだけでなく、愛好者に混乱をもたらす危険性をはらんでいる。

とりわけ、優れたものを選ぶという競技会の本質から考えれば、競技会の乱立は、その社会的地位と評価を不確かなものにするにとどまらず、競技そのものの意義を著しく失わせることになる。その結果、競技者の参加意欲を減退させ、技量向上のきわめて大きな阻害要因にもなる。

したがって、ボールルームダンスには、愛好者の多様な要請に応えるとともに、競技者が旺盛な意欲を持ち、周到な準備とトレーニングによって挑み、真の名誉をかけて競う競技会、そして、その成果が真に権威あるものとして社会的承認を得る競技会制度の整備が求められる。

(2) 公明正大な審判制度の確立と審判員養成システムの構築

ボールルームダンスの客観的評価には困難が伴う。しかし、競技会の名誉と権威は、公明正大な評価のうえに成り立つことから、誰からも認知される審判制度とともに、公的責任を担うにふさわしい審判員を養成するシステムの構築が求められる。

ボールルームダンス競技では、その客観的評価において多様な困難をともなう。したがって、競技会の名誉と権威は、優れた者を異論のないかたちで選び、それを公認するという評価の公明正大さに基礎を置いている。

評価の公明正大さを保つためには、それぞれの審判員がきわめて高い水準の評価視点や方法を共有するばかりでなく、それを競技者に明示し認知させるとともに、鑑賞者にも理解されるものでなければならない。そのためには、ボールルームダンス界全体が、ボールルームダンスの理念から導かれる見方・捉え方、そして評価基準を確立するとともに、それを愛好者の文化的教養の一部として普及することが重要となってくる。したがって、ボールルームダンス界には、こうした原点に立ち返って、広く理解を得られる公明正大な評価を可能とする審判制度を確立することが望まれる。

しかし、客観的評価がボールルームダンスの多様な魅力の享受や創造性を抑制することは現に戒められねばならない。その意味で、競技の評価は競技に限定適用されるものであり、ボールルームダンスのすべてではないことを周知することが望まれる。

また、このような審判制度が真に機能するには、その運用の公的責任を担う審判員の役割が重要である。審判員は、ボールルームダンスの発展における重要な責務を自覚するとともに、その判定が人々の支持を得られるよう研鑽を重ねていくことが求められる。したがって、高潔な人格と審判能力を備えた審判員を養成するシステムの構築が望まれる。

(3) 競技力開発システムの構築

競技力の開発は、ボールルームダンス文化の深まりにつながるばかりでなく、普及にも大きく貢献する。したがって、競技者モデルを中核にした発掘・育成・強化・支援の4ステージを層化・体系化した競技力開発のシステムを構築することが望まれる。

競技としてのボールルームダンスの発展は、ボールルームダンス文化構築の最先端を担うばかりでなく、競技の魅力と価値を社会に明示することによって、ボールルームダンスそのものを活性化し、いっそうの普及にも貢献する。したがって、競技力開発はボールルームダンスの文化的深まりと広がりにかわめて重要な意味をもっている。

ボールルームダンスが世界文化となっている現在、競技力の開発は、ボールルームダンスの普及によるとともに、意図的・計画的・組織的な取り組みにもよらねばならない。つまり、素質と才能のある者を見出し、能力を高め、強化し、水準維持を支援するという、「発掘・育成・強化・支援」の4ステージに対応したシステム化が求められるのである。このシステムは、競技者モデルを中核にして、世界的レベルのパフォーマンス能力の開発を目標として定め、それにいたる4ステージを層化・体系化することによって、組織的にその実現に向かう競技力開発システムとして構想される。

つまりそれは、「発掘・育成・強化・支援」のそれぞれのステージにおいて、求められる能力を培うためには、「何を、いつ、どこで、誰が、どのように」展開するのかを構想し、その具体化に必要な技術や行動様式などの文化的資源、対象者と支援者からなる人的資源、施設・設備や機器などの物的資源を吟味し、それを整備した組織的な営みとして展開するシステムとして構築される。また、こうした競技力向上システムには、競技者モデルに人間的発達を組み込むとともに、可能性を有する者が多様なかたちでアクセスできる開放性を備えていることが望まれる。

(4) 海外派遣や研修についての支援システムの構築

世界レベルで競技するには、早期における世界水準での経験が必須である。したがって、才能を有する誰もが可能な、海外派遣や研修についての支援システムの構築が望まれる。

多くの競技スポーツがそうであるように、世界レベルで競技するには、ある時点での世界水準の経験を積むことが望まれる。とりわけボールルームダンスが、さまざまな民族に固有の音楽と踊りをベースに発展した文化的多様性を有していることを考慮するならば、世界水準の経験は少なくとも十代の初期から望まれよう。

したがって、才能ある若い世代を積極的に選抜し、世界レベルでの経験を積ませる海外留学や研修を支援するシステム、それも派遣と招聘の両面を併せもったシステムを構築することが望まれ

る。また、このシステムが先述の競技力開発システムと連動して構築されるべきであることはいうまでもない。

(5) 国際交流支援システムの構築

市民レベルでの国際交流は、文化享受を深めるだけでなく、享受意欲をいっそう喚起し、品位あるボールルームダンスの普及・振興に大きな効果をもたらす。したがって、これを支援するシステムの構築が求められる。

これからの市民生活におけるグローバル化の進展と国際理解の重要性を考えると、世界文化としてのボールルームダンスが果たす役割はきわめて大きい。また、海外には生活文化としてのボールルームダンス享受のモデルが具体的に存在する。したがって、ボールルームダンスには、競技力開発を求める国際交流にとどまらず、国際経験によってその文化享受をより豊かにし、文化的意義をいっそう高めるための一般愛好者の積極的な国際交流が望まれる。したがって、こうした国際交流を支援するシステムの構築が求められるのである。

こうした市民レベルでの国際交流は、それ自身が一般愛好者の文化享受を深めるだけでなく、それを契機にいっそうの享受意欲を喚起する。このことは、品位あるボールルームダンスの普及・振興に大きな効果をもたらす。もちろん、こうした市民レベルの国際交流は、21世紀に望まれる「民際外交」の重要な担い手でもあることは論を待たない。

5. 社会的理解の促進

(1) メディアバリューの創出

ボールルームダンスの魅力と文化的意義を訴求するには、従来の方法に加えて、話題づくり、スターづくり、イベントづくりなどを通じて新たなメディアバリューを積極的に開発することが望まれる。

我が国における、ボールルームダンスの社会的認知は依然として低く、望ましくないイメージが市民社会になお大きく残っている。そして、それが多くの人々にとって心理的バリアとなり、ボールルームダンスへの自然なアクセスを妨げるものとなっている。したがって、このイメージを早急に払拭し、ボールルームダンスの魅力と価値の理解を広げるとともに、ボールルームダンスが市民生活において大きな文化的意義を有するものであることを社会に訴求することが望まれる。

社会的理解を求めるには、多様な人々にその魅力と価値、文化的意義を訴える地道な努力とともに、より大きなメディアバリューを創出していくことが望まれる。例えば、教習所やホールごとに個別に展開される現在の告知スタイルを再検討し、訴求力の強い統合的で普遍的な方法を工夫するにとどまらず、“話題づくり”“スターづくり”“イベントづくり”などのメディアバリュー創出への総合的、かつ戦略的な取り組みが求められる。

(2) 情報交流システムの構築

ボールルームダンスを市民生活に定着させるために、情報交流の活性化が求められ、IT（情報技術）革命の成果を活用した情報交流システムを構築することが望まれる。

ボールルームダンスを市民生活に確実に根づかせるには、メディアバリューの創出によるより広い訴求力を活用するだけでなく、人々の認識の底流に訴える深い浸透力を活用することも望まれる。これまでは、そのツールとして信頼度の強い人間関係が用いられてきた。しかし、なお有効ではあるが、その閉鎖性は打破されねばならない。

幸い、IT化の進展は、愛好者による情報交流のシステム化を促進する可能性を持っている。また、新たな情報交流ツールは、信頼度の高い成熟した情報交流を可能としつつある。

したがってボールルームダンス界には、新たなメディアツールの積極的活用を通じて、愛好者に適切な情報提供を行うとともに、愛好者間の情報ネットワークを支援し、その魅力と価値、文化的意義を浸透させる情報交流システムを構築することが望まれるのである。

（3）ボランティア活動支援システムの構築

文化の社会的評価は、それに携わる者の社会的評価によるところも少なくない。したがって、ボールルームダンス関係者の積極的な社会貢献活動を促すような、ボランティア活動支援システムを構築することが望まれる。

市民社会における、文化の地位と評価は、その文化的意義の理解とともに、それに携わる者の社会的評価によるところが大きい。したがって、ボールルームダンスのマイナスイメージを払拭し、地位と評価の向上を図るためには、関係者の社会評価向上のための努力が求められる。

人物の社会的評価は、その帰属集団や職業、学歴などによることが多いが、日常的な振る舞いや社会活動によることも少なくない。とりわけ、市民生活においては、地域への奉仕や社会貢献などのボランティア活動が重要な意味をもっている。

したがって、関係者一人ひとりがこのことの重要性を十分に自覚し、地域サービスや社会貢献活動に積極的に参加し、市民社会との友好的関係を構築するよう努めることが望まれる。こうした、ボールルームダンス関係組織や関係者の積極的なボランティア活動参加を実現するために、それを支援するボランティア活動支援システムの構築が求められるのである。

6. ボールルームダンス文化研究開発システムの構築

ボールルームダンス文化の発展と課題に対応していくためには、文化的享受ビジョンの検討をはじめとする学術的な取り組みが求められる。したがって、それを支援するボールルームダンス文化に関する研究開発システムの構築が求められる。

21世紀の市民生活を展望するにあたって、ボールルームダンスのもつ文化的意義とその豊かな可能性を考慮すれば、ボールルームダンス界には、自らに課せられた課題の解決に組織的に取り組むことが望まれる。これらの課題の中には、確かに、現在取り組まれているものや即座に対

応できるものもあるが、多くは、崇高な理念の共有をベースとした十分な検討と周到な準備、そして堅実な計画に基づく組織的取り組みを必要とするものである。

とりわけ、ボールルームダンスの文化的意義の確立や文化的享受モデルの構想などは、今後の課題と方策の総体的な方針と性格を基礎づけるものとなり、先進国モデルの調査研究を含む学術的研究を必要とする。また、振興と活性化を支える学習支援システムや競技力開発システムの構築には、総合的な科学的研究が不可欠となる。地域における享受サービスシステムの構築も、地域の実状に柔軟に対応しうるモデルの開発が前提である。そして、障害をもつ人々や高齢者のボールルームダンスにおいても、同様の研究が求められる。

したがって、21世紀におけるボールルームダンスの文化的ビジョンを開発するとともに、課題と方策への対応を構想するために必要となる科学的資料を収集整理し、ボールルームダンスに関する学術的取り組みを支援する研究開発システムの構築が早急に求められるのである。